

大飯3号機 定検延期

2～3カ月 地元不安の声受け

関西電力は一日、大飯原発3号機（おおい町）で八日から開始予定だった定期検査を二～三カ月延期すると発表した。検査のため県内外から千八百人の作業員が入る予定だったが、新型コロナウイルスの感染が拡大しかねないとして地元の不安が高まっていた。Ⅱ 地元へ報告⑦面、新型コロナウイルス関連②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯面

（今井智文）

新型コロナ

検査開始直前の日程変更は異例。関電は作業員が原発に入る二週間前から健康

状態や行動歴を確認し、異常があれば来県させないなどの対策を取り、予定通り検査に入る方針を示していた。ただ、県やおおい町、作業員を受け入れる地元の民宿関係者などから懸念の声が強まり、関電は当面の検査開始を回避する判断を

した。

関電の水田仁・原子力事業本部長代理が一日、県庁を訪れ、野路博之県安全環境部長に対応を説明。野路部長は「地元の不安の低減につながる」と日程変更を評価した。

大飯3号機は法令で八月二十二日までに次回定期検査を始める必要がある。関電は、検査を今月に前倒しして開始し、電力需要が高まる七月中旬に運転を再開する予定だったが、計画を変更して七～八月まで運転を継続し、その後、検査に入る。関電は電力供給に大きな影響はないとしている。